



三重大学附属図書館における情報リテラシー 教育支援の新たな取り組み

—顧客満足度の向上を目指して—

平成18年8月24日

高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム
(第8回)

三重大学附属図書館
情報リテラシー担当
柴田 佳寿江

<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>



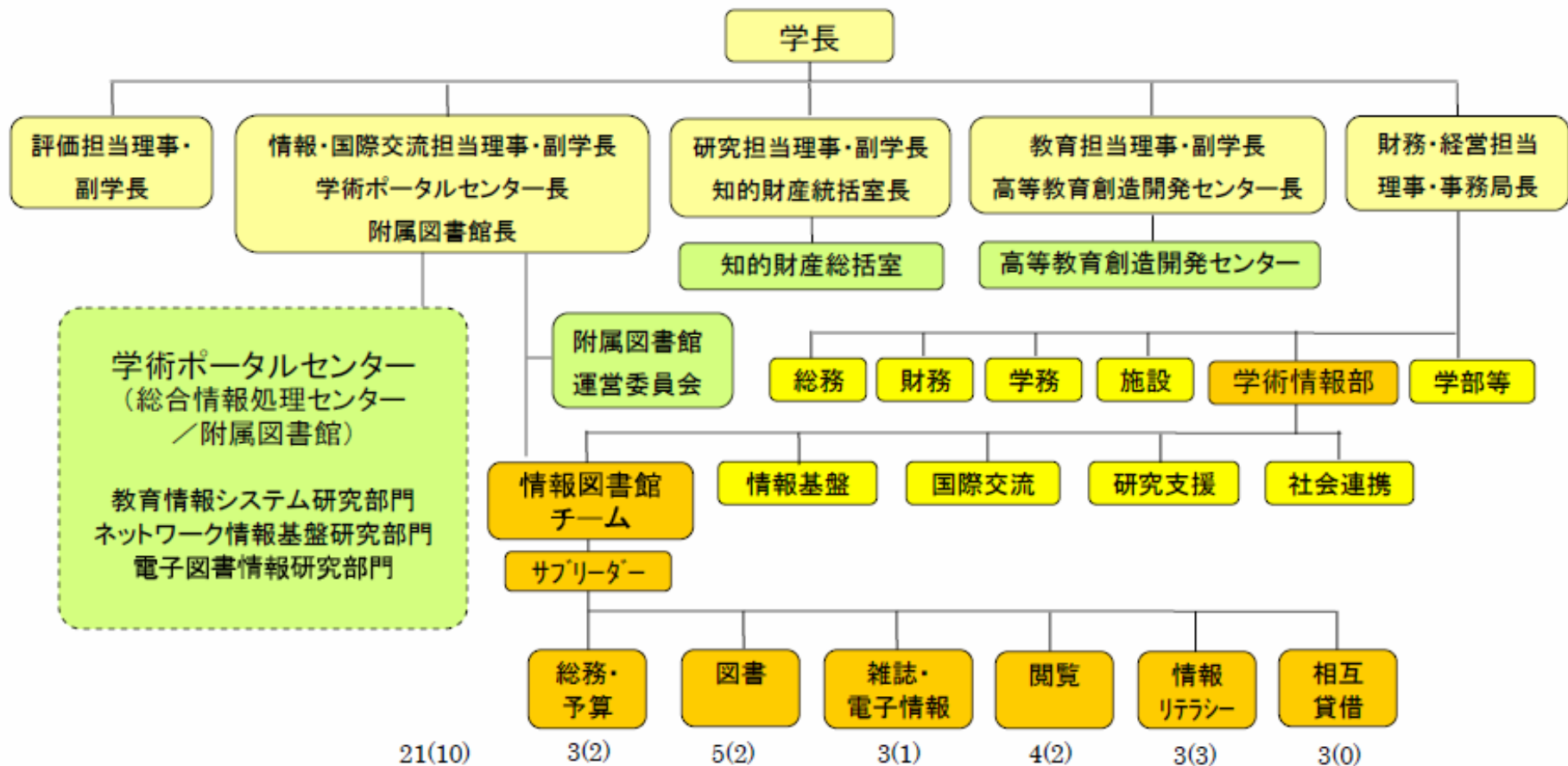


本日の内容

- ▶ 三重大図書館の講習会ご紹介
- ▶ 学部初期段階講習会の満足度調査
 - ◆ 学生
 - ◆ 教員
- ▶ 満足度向上ための図書館の取り組み
- ▶ 図書館の満足度調査-図書館から30の質問
- ▶ 新たな情報リテラシー教育を実現するために



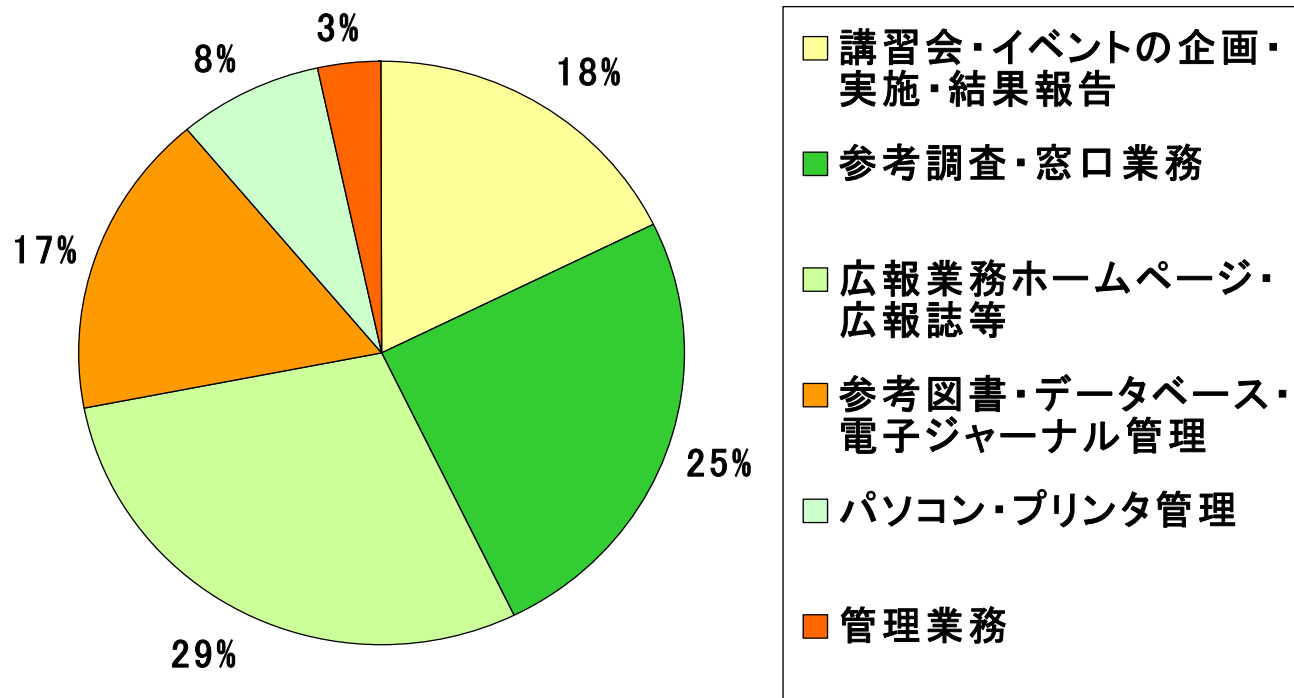
自己紹介：三重大学の組織 (抜粋：平成18年度)





自己紹介：情報リテラシー担当の業務内容

- 🔥 情報リテラシー関連事業（情報リテラシー講習会、広報、イベント企画、エンドユーザサービス）を中心に平成18年度～機関リポジトリ構築も担当





情報リテラシー教育支援の背景

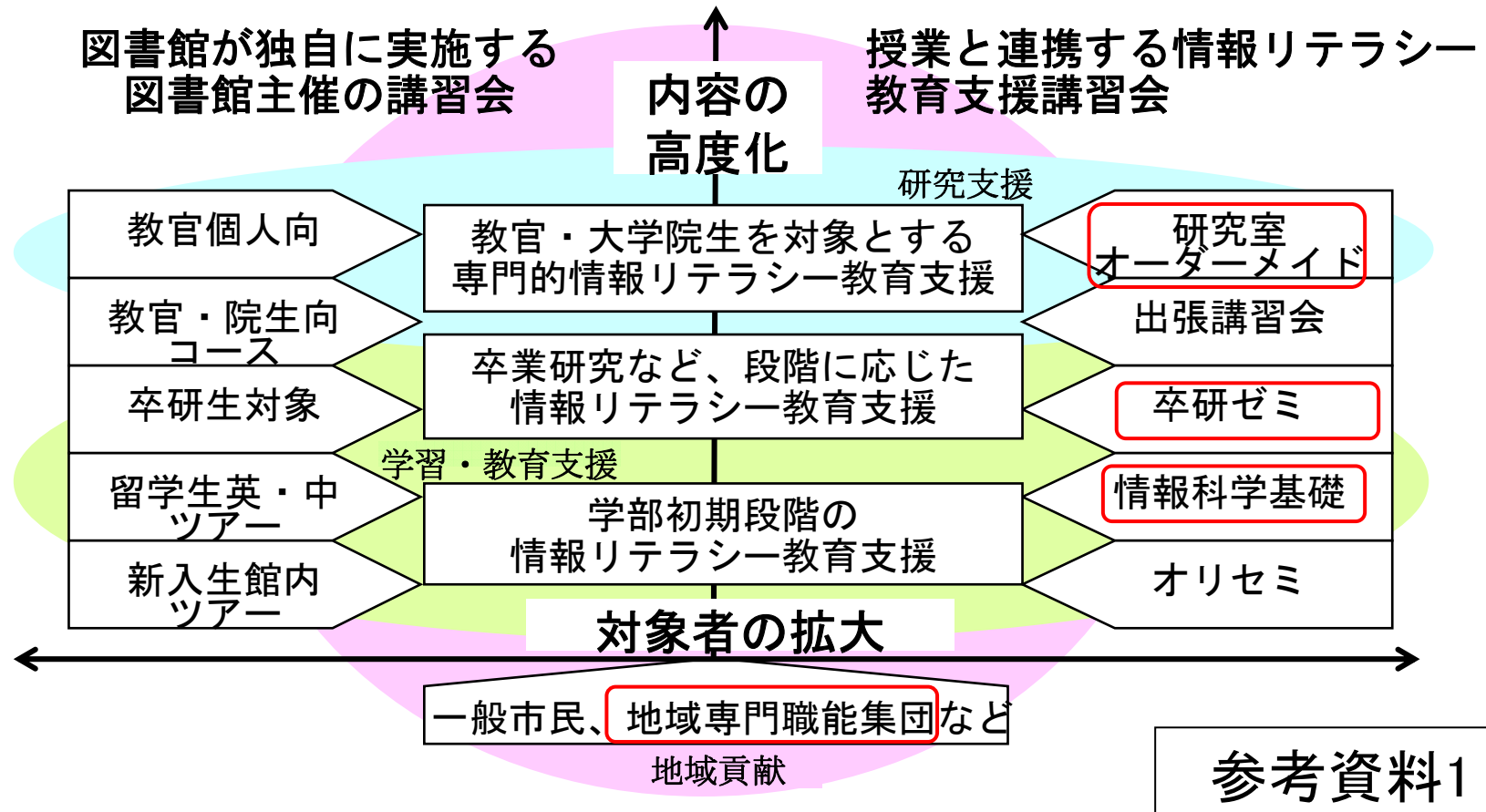
❖ 国立大学法人 三重大学の中期目標・中期計画 「平成17年度 年度計画」

- ◆ 教育に関する目的を達成するための措置（教育指導方法）
 - 教育指導方法：プレゼンテーション型授業やe-ラーニングを用いた授業など、学生参加型の授業方法…。
 - e-ラーニングを用いた情報専門教育…CMSの構築。
- ◆ 教育の実施体制等に関する目標（学術情報基盤）
 - 電子ジャーナル、データベース、e-Book、目録電子化等の電子情報サービスの充実・整備などに努めるとともに、デジタルアーカイブを活用し図書館機能の新たな開発と情報リテラシー教育の充実強化を図る…。



三重大図書館の講習会ご紹介

各段階にあわせた講習会メニュー





三重大図書館の講習会ご紹介

学部初期段階の情報リテラシー教育概要

👉 目的

- ◆ 大学の「教育改革」に貢献する
 - 情報リテラシーの全体レベルの底上げ（サービス浸透）
 - 「情報を使う力」を前提にした授業への展開

👉 方策

- ◆ 授業とのタイアップによる講習会を重点的に実施
 - 図書館ツアー（学部1年前期）
 - ※ 授業での採用分（20回・317名）
 - ※ 図書館主催分（13回・66名）
 - 全学必修科目「情報科学」の情報リテラシー入門（学部初期1-2年）
5学部36クラス約1400名全てのクラスで採用



三重大図書館の講習会ご紹介

学部初期段階の情報リテラシー教育

情報リテラシー入門



情報リテラシー入門

- 全学必修科目「情報科学」:「情報科学基礎」, 工:「計算機基礎」等で実施
- 平成13年～ 全ての学生が、1年時(一部2年時)受講
- 共通教育カリキュラム委員会で認知・採用は教員の自由意思

◆ 目標:

- 授業のレポートやディベートに必要な知識とスキル
- 図書館を使ってみようという気持ち



三重大図書館の講習会ご紹介

情報リテラシー入門内容

◆ 内容:

● 1コマコース

- ※ 情報リテラシーは、大学生活・社会生活で必須の能力
- ※ インターネット(検索エンジン)と学術情報(図書館DB)の使い分け
- ※ 蔵書検索(OPAC, WebcatPlus)の概要説明と検索実習
- ※ 文献・情報の入手方法

● 2コマコース(平成18年度より新設コース)

1日目

- ※ 情報リテラシーは、大学生活・社会生活で必須の能力
- ※ インターネット(検索エンジン)と学術情報(図書館DB)の使い分け
- ※ 蔵書検索(OPAC, WebcatPlus)の概要説明と検索実習
- ※ 文献・情報の入手方法
- ※ 各自で設定したテーマで検索

(※検索して見つけた図書を次回までに図書館からかりて来ることが宿題)

2日目

- ※ レポートの書き方
- ※ 簡単なレポートを書く



三重大図書館の講習会ご紹介

卒業研究を控えた段階の情報リテラシー講習会概要

📌 目的

- ◆ 論文作成に必要な情報検索の習得
 - 論文を書く上で必要な情報の検索方法の紹介
 - ILLなど図書館サービスの紹介
 - JABEE※)認定対応

📌 方策

- ◆ 研究テーマにあった内容を重点的に実施
 - 国内文献検索講習会 (CiNii)
 - 国内+海外文献検索講習会 (CiNii、Web of Science)

※JABEE: 日本技術者教育認定機構



三重大図書館の講習会ご紹介

文献検索講習会内容

◆ 内容:

- 国内文献検索講習会
 - ※ 蔵書検索 (OPAC, WebcatPlus) の説明
 - ※ いもづる方式で論文を探す方法
 - ※ 国内文献検索 (CiNii) の概要と検索方法の説明
 - ※ 電子ジャーナルでの国内文献の利用
 - ※ 実習

- 国内＋海外文献検索講習会
 - ※ 蔵書検索 (OPAC, WebcatPlus) の説明
 - ※ いもづる方式で論文を探す方法
 - ※ 国内文献検索 (CiNii) の概要と検索方法の説明
 - ※ 電子ジャーナルでの国内文献の利用
 - ※ 海外文献検索 (Web of Science) の概要と検索方法の説明
 - ※ 電子ジャーナルでの海外文献の利用



三重大図書館の講習会ご紹介

地域職能集団への講習会

📌 学校司書

- ◆ 学校図書館のための情報リテラシー入門講座
 - 津市教育委員会の平成17年度学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の一環として実施
 - 内容: インターネット上のデータベースを使って図書の探し方のご紹介
 - ※ 詳細: http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/gakkotoshokan_literacy_2005.html
- ◆ パスファインダー入門講座
 - 人文学部・佐藤義則教授の公開講義「情報メディアの活用」において実施
 - 内容 パスファインダーの説明、及びパスファインダー作成の実習(1日目)
受講生が作成したパスファインダーの発表会(2日目)
 - ※ 詳細: http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/gakkou_pf.html

📌 看護師

- ◆ 情報リテラシー入門講習会
 - 三重県看護協会主催 認定看護管理者研修のカリキュラムの一環として実施
 - 内容: インターネット上のデータベースを使って図書の探し方のご紹介
 - ※ 詳細: 近日ホームページに掲載予定



学部初期段階講習会の満足度調査

❖ 学生の顧客満足度調査

- ◆ 講習会でのアンケート調査
- ◆ 「図書館から30の質問」

❖ 教員の顧客満足度調査

- ◆ 第2回教員評価アンケート(平成17年度実施)
 - 第1回は、平成年15年に実施

HP上で結果を公開

http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/johokiso_report.pdf



学部初期段階講習会の満足度調査：学生 講習会アンケート結果



学生アンケート(講習会前・講習会后・全体の感想)

2001年から2006年前期の実績

参考資料2

- ◆ インターネットの利用について
 - 2001年から2002年でインターネットを使っている学生が激増
 - 2001年から2005年で日常的にインターネットを利用している学生が増加
 - 2006年前期、4割近くに到達

- ◆ 情報リテラシーについて
 - 元々の知識：2003年から2004年にかけて、激増
 - 講習会後の理解は、定義をより明確にし、ポイントアップ

- ◆ OPACについて
 - 元々の使用：2004年、2005年とやや低い
 - 講習会後の理解は、例年9割以上が理解



学部初期段階講習会の満足度調査：学生 講習会アンケート結果

学生アンケート(講習会前・講習会后・全体の感想)

- ◆ 必要としている情報・文献が探せるか
 - 2003-2005年は「探せそう」が9割を超えている
 - WebcatPlusやインターネット情報の探し方に切り替えた
- ◆ 全体の理解
 - 2001年から2005年で、「よくわかった」「だいたいわかった」あわせて常に9割をキープ
 - 2005年は「よくわかった」が激増
- ◆ 講習会の難易度
 - 「ちょうどよかった」が約6割
- ◆ レポートの書き方
 - 「わかった」のが96%
- ◆ 講習会後のフォローアップ→学生ポータル&レファレンス



学部初期段階講習会の満足度調査：教員 教員評価アンケート結果

📌 教員評価アンケート(H17年度)の実施

◆ 実施目的

- 高校の必修科目「情報」の開始、E-learningシステム導入など内外の事情の変化に対応
- 事業全体としての報告、内容・方法の見直し

◆ 実施方法

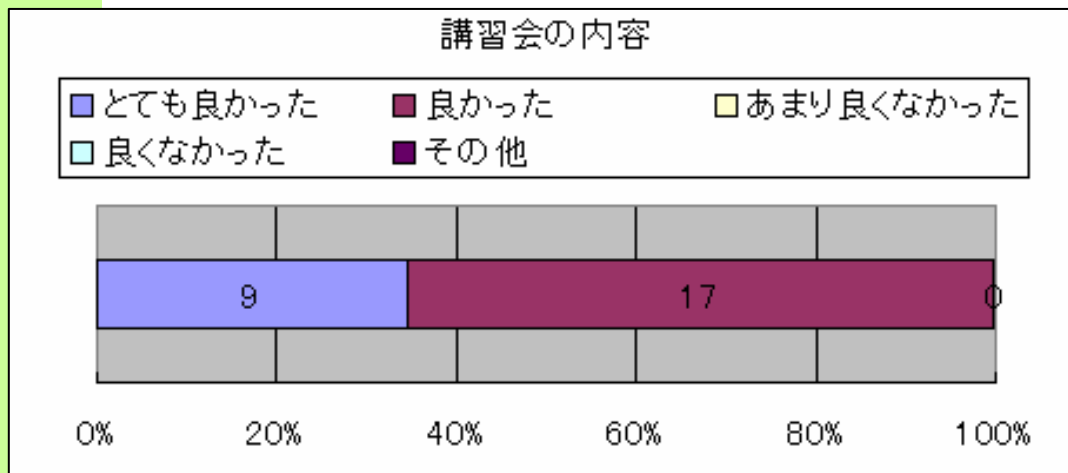
- 対象：平成16年以降に共通教育科目「情報科学基礎」等で「情報検索講習会」を採用した教員
- 期間：平成18年3月13日～3月30日
- 回答数：26名、実質5割の回答率
 - ※ （人文：2名，教育：6名，医学：0名，工学：7名，生資：11名）
- Webのアンケートフォーム(記名式全10項目、選択・記述)

参考資料3



学部初期段階講習会の満足度調査：教員 教員評価アンケート結果

講習会の内容について

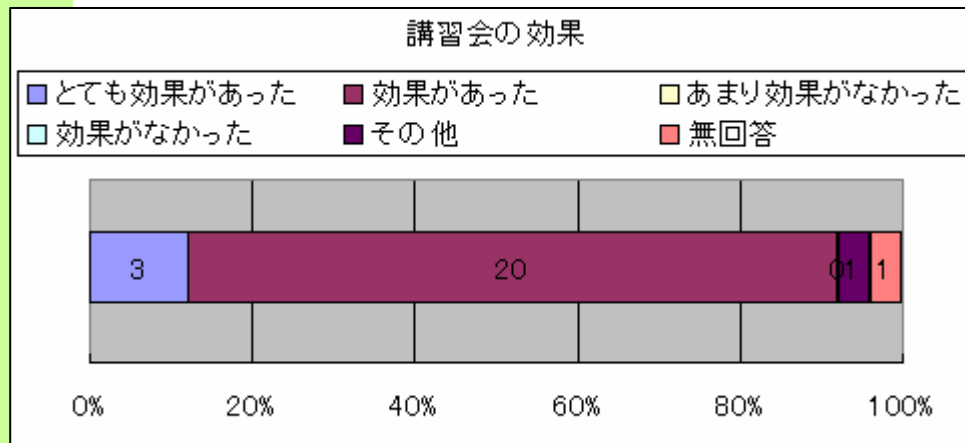


- 内容・方法ともに高い評価
- ◆ 検索テーマが各学部の内容である
- ◆ 実技も一緒に行うため、効果的に学習できている



学部初期段階講習会の満足度調査：教員 教員評価アンケート結果

講習会の効果について



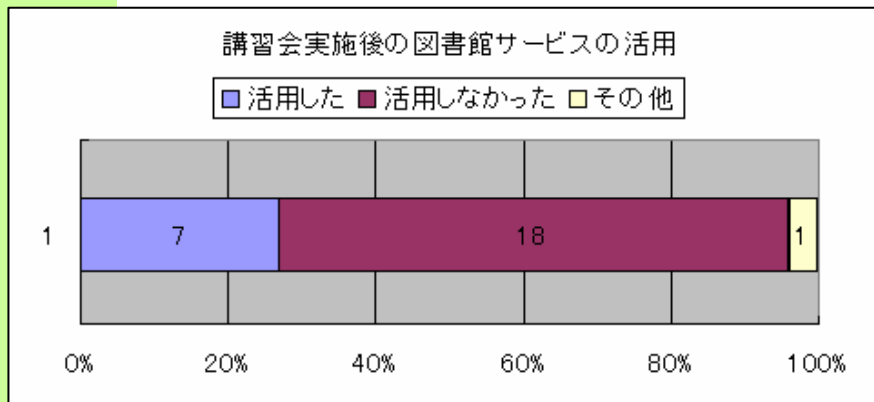
効果についても高い評価

- ◆ 講習会后、学生がレポート作成のために早速データベース検索を利用している
- ◆ 実際に情報検索を使用し始めるのはもっと先であり、必要になるときには忘れてしまうが、1度経験しているかどうかの違いは大きい



学部初期段階講習会の満足度調査：教員 教員評価アンケート結果

講習会実施後、講習会の内容（OPACやWebcatPlusなど）を
活用されましたか



講習会実施後の図書館サービスの 活用は、約3割

- ◆ 研究室内の話ですが、講習会資料を配布してアピールという声もあり。
- ◆ 学年により特性があり、3年生以上になれば自主的に図書館サービスを使うのではないか。

◆ 効果はあると評価される

◆ 教員が図書館サービスを授業で利用する機会を引き出せていない



学部初期段階講習会の満足度調査：教員 教員評価アンケート結果

- ❖ 第1回教官評価アンケートから得た反省点と対応
 - ◆ 当時のOPACサーバのキャパシティ限界により、人数の多い授業では一斉に実習できない
 - 平成16年12月のシステムリプレイスで改善
 - ◆ 学部初期段階の講習会でも雑誌論文の検索を紹介していたが、難しすぎる
 - 参考文献によるいもづる方式の文献探しなど、より身近で実践的な内容に切り替え

講習会の内容、講習会の方法、次年度以降の採用の項目が改善できた



満足度向上ための図書館の取り組み

📌 講習会内容や方法の変更

- ◆ 教員評価アンケートから、理解度を確認しながら進める講習会を期待されていることが判明
- ◆ また、同アンケートより、講習会後の図書館利用を促進できていないことが判明
- ◆ 講習会時のアンケートより、PC操作に慣れている学生の増加が読み取れるので、内容の高度化に対応できる

📌 図書館に良いイメージを持ってもらう

- ◆ 良いイメージを持ってもらい、図書館に足を運んでもらうと、次の段階での講習会の内容を理解してもらうための下地ができる
- ◆ 講習会自体の聞く態度にも変化が期待できる



満足度向上ための図書館の取り組み 講習会内容の広域化

- ✦ 1年次必修科目「情報科学基礎」等で2コマコース新設
 - ◆ 従来の「情報検索入門」に加え「レポートの書き方」を実施。
 - ◆ 約半数のクラスが2コマコースを採用。
 - ◆ 1日目の最後は、学生本人のテーマ設定による図書検索。
 - ◆ 宿題として、図書を借りてくること。できれば読んで来ること。
 - ◆ 2日目は、借りてきた図書に基づいたレポート執筆。

- ✦ プレゼンテーション入門講習会を本格的に実施
 - ◆ 「情報科学基礎」「専門科目」「卒業研究」の一部で実施されているのみ。全学的に必修化されていない。
 - ◆ 高校の「情報」開始に伴う格差→補講として採用。
 - ◆ 受講対象者を学生・教員だけでなく職員まで広げる。



満足度向上ための図書館の取り組み 講習会方法の高度化

👉 e-learningシステムによる講習会

- ◆ 三重大学moodle※)により10月以降の「情報科学基礎」「化学基礎」において実施。
- ◆ 平成18年度～本格運用が始まり、導入例が増加中。
- ◆ 教育方法の高度化(コミュニケーション型授業)により、教育効果の向上、ペーパーレス化の効果が実証されている。遠隔授業が目的ではない。

※“e-learningシステム”: 三重大学の中期目標・中期計画に明記されている全学的な取組。moodleはオープンソースとして公開されているCMSの一種。

※CMS: Contents Management System

Webコンテンツを構成するテキストや画像などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェア。ブログや機関リポジトリなどで用いられている。



満足度向上ための図書館の取り組み 結果-2006年度前期アンケート速報

❖ 講習会全体の理解が若干低下

「よくわかった」「だいたいわかった」割合

◆ 2006年前期:94.6%(2005年通年:96.6%)

❖ 「OPACを使うことができそう」は、昨年並み

◆ 2006年前期:95.0%(96%)



E-learningシステム導入で若干理解度の低下が見られたが、影響は少なかった



図書館の満足度調査-図書館から30の質問

- ❖ 人文学部、教育学部の授業「図書館情報学概論（雨森先生／佐藤先生）」の1コマで「大学図書館の事例」報告
- ❖ 企画：「図書館から30の質問」
 - ◆ 図書館に関する30の質問に回答
 - ◆ どの程度図書館サービスを理解しているか、現状を把握することができる。（翌週の授業で処方箋を配布）
 - ◆ 対象
 - 学部：人文、教育など
 - 学年：1年生から4年生（中心は2、3年生）
 - 人数：50名

参考資料4



図書館の満足度調査-図書館から30の質問 図書館サービス

👉 図書館開架以外の本の利用方法認知度

- ◆ 書庫置き 82%
- ◆ 学部置き 40%

👉 データベースの利用率

- ◆ OPAC 62%
- ◆ WebcatPlus 16%

👉 相互貸借サービスの認知度 72%

👉 図書のリクエストサービスの認知度 46%



講習会でPRはしている。しかし、受講しても実際に図書館を使う機会がないと忘れてしまう



図書館の満足度調査-図書館から30の質問 図書館へのイメージ

👉 図書館は好きですか？

- ◆ はい 44名
- ◆ どちらでもない 6名

👉 三重大図書館で嬉しい体験をしたことがある 20名

👉 三重大図書館でいやな体験をしたことがある 6名



講習会を通して図書館の利用を促しても、図書館に対してよいイメージを持っていない学生へは届きにくい

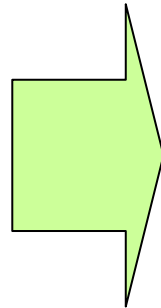


図書館自体にもつイメージを良いものに マスコットキャラクター

新名物：平成17年8月に寄贈されたフクロウ
正式名称 教育の神様



- ◆ 事務局経由で図書館玄関ホールに寄贈
- ◆ フクロウ：知恵の象徴：図書館のシンボルにふさわしい
- ◆ 著作権者、知財部に確認のうえ、キャラクター化



このマスコットキャラクターを使って、
図書館のイメージアップを図れないか？



図書館自体にもつイメージを良いものに マスコットキャラクター

👉 平成18年度新入生ウェルカムキャンペーンの一環として、
フクロウのマスコットキャラクター「教育の神様」愛称を募集！

- ◆ 図書館ツアー参加者にも応募を呼びかける
- ◆ 記念品がもらえちゃう！という呼びかけ

👉 結果

- ◆ 245名の方が293件の愛称を応募
- ◆ 8月に愛称が決定。授賞式を開催

愛称は
ブックロウです！





講習会を通して、図書館への要望をキャッチ

- ◆ 学生や教員とのコラボレーション
 - 人文学部のゼミ生
 - 「図書館利用案内ビデオ」の製作
 - 教育学部・情報課程の学生
 - 「パソコン性能アップ」の提案
 - 環境ISO学生委員会
 - 「図書リユースボックス」の設置

講習会を通して、
こんな「棚ぼた」も！





今後の目標

- ▶ 図書館の使い方を説明する動画教材を作成
 - ◆ 自動貸出装置の使い方などを作成
 - ◆ E-learningシステムに動画を搭載することにより、講習会での説明に活用する

- ▶ 共通教育で利用される統一テキスト作成に参加
 - ◆ 図書館の情報リテラシー教育の存在感を示す機会に



新たな情報リテラシー教育を実現するために

❖ 大学全体を見渡す

- ◆ 学生・教員等の動向に目を配り、図書館員が入る込めるニッチ（隙間）を見つける



図書館だけでは実現できないことも可能に

❖ 大学全体の中で、存在感を示す

- ◆ 大学全体に、自分たちの活動を理解してもらう
- ◆ 理解してもらうには、ボトムアップだけでなくトップダウンでの働きかけが有効



大学全体を巻き込む

※情報リテラシーは一日にして成らず

※しなやかに・したたかに。存在感をPR(Public Relations)